

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 16 年 12 月 16 日 (2004.12.16)

【公開番号】特開 2002-253778 (P2002-253778A)
 【公開日】平成 14 年 9 月 10 日 (2002.9.10)
 【出願番号】特願 2001-61335 (P2001-61335)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 7

A 6 3 F 7/02 3 1 3

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 1 月 14 日 (2004.1.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動入賞領域への遊技球の入賞に基づいて、変動入賞装置の可動部材を遊技者にとって有利な特定の態様で変動動作させる補助遊技を実行し、該補助遊技において該変動入賞装置に受け入れられた遊技球が特別入賞領域に入賞したことに基づいて、前記可動部材を前記特定の態様よりも更に有利な特別の態様で変動動作させる特別遊技を実行するようにした遊技機において、

前記始動入賞領域への遊技球の入賞に対して、未だ補助遊技が実行されていない始動入賞を記憶する始動入賞記憶手段と、

前記特別遊技の終了後に、前記始動入賞記憶手段の記憶に基づく記憶補助遊技を実行する場合に、当該特別遊技の終了から該記憶補助遊技の開始までの間に、所定の待機期間を設定する待機期間設定手段と、

前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行う記憶補助遊技報知手段と、

を備え、

前記待機期間設定手段は、前記始動記憶手段に記憶されている記憶数が、所定数よりも多い場合には、少ない場合よりも短い待機期間に変更して設定する待機期間設定変更手段を備えていることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

始動入賞領域への遊技球の入賞に基づいて、変動入賞装置の可動部材を遊技者にとって有利な特定の態様で変動動作させる補助遊技を実行し、該補助遊技において該変動入賞装置に受け入れられた遊技球が特別入賞領域に入賞したことに基づいて、前記可動部材を前記特定の態様よりも更に有利な特別の態様で変動動作させる特別遊技を実行するようにした遊技機において、

前記始動入賞領域への遊技球の入賞に対して、未だ補助遊技が実行されていない始動入賞を記憶する始動入賞記憶手段と、

前記補助遊技の終了後に、前記始動入賞記憶手段の記憶に基づいて連続して記憶補助遊技を実行する場合に、一つの補助遊技の終了から次の記憶補助遊技の開始までの間に、所定の待機期間を設定する待機期間設定手段と、

前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行う記憶補助遊技報知手段と、

を備え、

前記待機期間設定手段は、前記始動記憶手段に記憶されている記憶数が、所定数よりも多い場合には、少ない場合よりも短い待機期間に変更して設定する待機期間設定変更手段を備えていることを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

前記記憶補助遊技報知手段は、前記開始タイミングを数字表示もしくは音声によるカウントダウンで報知することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

当該遊技機は、前記可動部材の変動動作態様を異ならせた複数種類の補助遊技を実行可能であり、

前記記憶補助遊技報知手段は、少なくとも前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技の種類を識別可能な報知を行うことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 の何れかに記載の遊技機。

【請求項 5】

前記記憶補助遊技報知手段は、前記変動入賞装置に一体的に設けられて当該変動入賞装置への遊技球の入賞に関わる情報を表示可能な情報表示手段により構成されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 の何れかに記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本発明は、始動入賞領域（第 1 始動入賞口 103a、103b、第 2 始動入賞口 104）への遊技球の入賞に基づいて、変動入賞装置（102）の可動部材（500）を遊技者にとって有利な特定の態様で変動動作させる補助遊技を実行し、該補助遊技において該変動入賞装置に受け入れられた遊技球が特別入賞領域に入賞したことに基づいて、前記可動部材を前記特定の態様よりも更に有利な特別の態様で変動動作させる特別遊技を実行するようにした遊技機において、前記始動入賞領域への遊技球の入賞に対して、未だ補助遊技が実行されていない始動入賞を記憶する始動入賞記憶手段（例えば遊技制御装置 200）と、前記特別遊技の終了後に、前記始動入賞記憶手段の記憶に基づく記憶補助遊技を実行する場合に、当該特別遊技の終了から該記憶補助遊技の開始までの間に、所定の待機期間を設定する待機期間設定手段（例えば遊技制御装置 200）と、前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行う記憶補助遊技報知手段（情報表示部 600、スピーカ）とを備え、前記待機期間設定手段は、前記始動記憶手段に記憶されている記憶数が、所定数よりも多い場合には、少ない場合よりも短い待機期間に変更して設定する待機期間設定変更手段（例えば遊技制御装置 200）を備えるようにした。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、前記記憶補助遊技報知手段は、前記記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行うようにしているので、遊技者は記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを正確に認識することができ、例えば、記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングに合わせて変動入賞装置に入賞し易いような発射操作等を行うことが可能となる。

また、待機期間および記憶補助遊技の報知の仕方について、待機期間設定手段に、始動入賞記憶手段に記憶されている記憶数に応じて、補助遊技或いは特別遊技が終了してから記憶補助遊技を開始するまでの待機期間を変更する待機期間設定変更手段を含ませている。従って、例えば、待機期間設定変更手段が特別遊技の終了後に待機期間を設定する場合に、始動入賞記憶手段に記憶されている記憶数が所定数（例えば、3個など）より多い場合には、待機期間（待機時間）を通常（例えば、6秒）よりも短い期間（例えば、4秒）に変更して設定する。

また、それに対応して、記憶補助遊技報知手段に、上記変更された待機期間に応じて、その報知態様を異ならせる報知態様変更手段を含ませてもよい。そして、報知態様変更手段は、カウントダウン表示を開始する時点の表示を通常では『5』から開始するところを、『3』に変更して開始するようにできる。これにより、特別遊技の発生等により始動入賞記憶が多い場合でも、迅速に記憶補助遊技を消化することができ、遊技者がイライラ感を抱くことを回避できる。また、始動入賞記憶数に上限を備えた場合には、記憶補助遊技の消化期間中が長引くことにより、その期間中に更に発生した始動入賞口への入賞が無効となってしまう事態を防止でき、一方、始動入賞記憶が少ない場合には、長い時間を掛けて記憶補助遊技を楽しむことができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、他の発明に係る遊技機は、始動入賞領域（第1始動入賞口103a、103b、第2始動入賞口104）への遊技球の入賞に基づいて、変動入賞装置（102）の可動部材（500）を遊技者にとって有利な特定の態様で変動動作させる補助遊技を実行し、該補助遊技において該変動入賞装置に受け入れられた遊技球が特別入賞領域に入賞したことに基づいて、前記可動部材を前記特定の態様よりも更に有利な特定の態様で変動動作させる特別遊技を実行するようにした遊技機において、前記始動入賞領域への遊技球の入賞に対して、未だ補助遊技が実行されていない始動入賞を記憶する始動入賞記憶手段（例えば遊技制御装置200）と、前記補助遊技の終了後に、前記始動入賞記憶手段の記憶に基づいて連続して記憶補助遊技を実行する場合に、一つの補助遊技の終了から次の記憶補助遊技の開始までの間に、所定の待機期間を設定する待機期間設定手段（例えば遊技制御装置200）と、前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行う記憶補助遊技報知手段（情報表示部600、スピーカ）とを備え、前記待機期間設定手段は、前記始動記憶手段に記憶されている記憶数が、所定数よりも多い場合には、少ない場合よりも短い待機期間に変更して設定す

る待機期間設定変更手段（例えば遊技制御装置２００）を備えるようにした。

これにより、補助遊技の終了後に記憶補助遊技を行う場合において、補助遊技の終了直後に即座に記憶補助遊技が実行されてしまうことによる遊技者の不満感を低減することができ、連続した記憶補助遊技を楽しむことが可能となる。また、始動入賞記憶が多い場合でも、迅速に記憶補助遊技を消化することができ、遊技者がイライラ感を抱くことを回避できる。また、始動入賞記憶数に上限を備えた場合には、記憶補助遊技の消化期間中が長引くことにより、その期間中に更に発生した始動入賞口への入賞が無効となってしまう事態を防止でき、一方、始動入賞記憶が少ない場合には、長い時間を掛けて記憶補助遊技を楽しむことができる。

また、前記記憶補助遊技報知手段は、前記開始タイミングを数字表示もしくは音声によるカウントダウンで報知するようにしてもよい。これにより、遊技者は開始タイミングをより確実に遊技者に認識させることができる。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００７０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００７０】

【発明の効果】

本発明は、始動入賞領域への遊技球の入賞に基づいて、変動入賞装置の可動部材を遊技者にとって有利な特定の態様で変動動作させる補助遊技を実行し、該補助遊技において該変動入賞装置に受け入れられた遊技球が特別入賞領域に入賞したことに基づいて、前記可動部材を前記特定の態様よりも更に有利な特別の態様で変動動作させる特別遊技を実行するようにした遊技機において、前記始動入賞領域への遊技球の入賞に対して、未だ補助遊技が実行されていない始動入賞を記憶する始動入賞記憶手段と、前記特別遊技の終了後に、前記始動入賞記憶手段の記憶に基づく記憶補助遊技を実行する場合に、当該特別遊技の終了から該記憶補助遊技の開始までの間に、所定の待機期間を設定する待機期間設定手段と、前記待機期間中に、その後に実行される記憶補助遊技における可動部材の変動動作の開始タイミングを知らしめる報知を行う記憶補助遊技報知手段とを備え、前記待機期間設定手段は、前記始動記憶手段に記憶されている記憶数が、所定数よりも多い場合には、少ない場合よりも短い待機期間に変更して設定する待機期間設定変更手段を備えるようにしたので、記憶補助遊技の実行状態をそれより以前の遊技状態と明確に区別することができ、記憶補助遊技の実行を遊技者に明確に実感させることができるという効果がある。

また、特別遊技の発生等により始動入賞記憶が多い場合でも、迅速に記憶補助遊技を消化することができ、遊技者がイライラ感を抱くことを回避できるという効果がある。また、始動入賞記憶数に上限を備えた場合には、記憶補助遊技の消化期間中が長引くことにより、その期間中に更に発生した始動入賞口への入賞が無効となってしまう事態を防止でき、一方、始動入賞記憶が少ない場合には、長い時間を掛けて記憶補助遊技を楽しむことができるという効果もある。